「せとうち発見の道」企画展

「子どもの成長を見守る
～節句（せっく）・遊びにまつわる資料～」

2023 年 2 月 28 日～5 月 28 日
於 ： 瀬戸内市民図書館

「ひなまつり」や「子どもの日」として現在も広く親しまれている「桃の節句」や「端午の節句」。節句は子どもの誕生や成長を祝う行事です。節句の飾りには、むかしも今も、親や祖父母、親類縁者など周囲の人々が注ぐ、子どもの健やかな成長や幸せへの願いが込められています。とくに医療が十分に発達していなかった時代には、現代にもまして切実な想いが込められていたと考えられます。

また、子どもたちの遊びは、時代によって大きく変わってきました。遊びの変化と遊びに使われるものの変化は、密接に関わっていると考えられます。

瀬戸内市では、節句の際にどのようなものが飾られ、子どもの遊びには、どのようなものが使われていたでしょうか。残されている資料から、変わったものと変わらないものを感じつつ、子どもの成長を見守ってきた家族や地域の姿を再発見します。

雛人形（ひなにんぎょう）　年代不詳（20 世紀か）旧牛窓民俗文化資料館資料

◆雛祭（ひなまつり）と雛飾（ひなかざ）り

雛祭は、雛遊びと上巳（じょうし）の祓（はらい）などが融合して始まったと考えられています。上巳とは、月はじめの巳（み）の日のことで、中国では、上巳の日に心身の穢れを祓い清める行事があり、それが３月３日に固定され、宴会行事として日本にも伝わったようです。雛遊びは、貴族の女子が楽しむままごとのような遊びで、もとは３月３日に限らず行われていました。

民間では、江戸時代の中期に、雛道具を中心とした雛遊びから、人形飾りを楽しむ人形祭りの要素を強めていきます。18 世紀の中頃には、３月３日に娘の誕生を祝う行事としての雛祭が確立し、年中行事として人々の生活の中に浸透していったと見られています。雛人形も、立雛（たちびな）から座った姿の雛人形となり、豪華な飾りになっていきました。

掛雛（かけびな）
年代不詳（20 世紀か）

雛の膳（ひなのぜん）　年代不詳（20 世紀か）

押絵雛（おしえびな）
年代不詳（20 世紀か）

雛の重箱（ひなのじゅうばこ）
年代不詳（20 世紀か）

このページで紹介している資料は、いずれも旧牛窓民俗文化資料館資料です。

◆端午（たんご）の節句（せっく）と五月人形

端午の節句は、５月５日に、男子の誕生を祝う行事として定着し、現在は「子どもの日」として国民の祝日となっています。

旧暦５月５日（現在の６月初旬）は、菖蒲（しょうぶ）の咲く頃で、菖蒲が邪気を祓うと考えられていることから「菖蒲の節句」とも言われます。奈良・平安時代には宮廷行事でしたが、江戸時代に新しい形となり、男子誕生の祝いという意味が加わったようです。

端午の節句には、五月人形として、「武者人形」などを飾ることが定着しています。江戸時代のはじめごろには、家の前に菖蒲飾りなどを飾っていたものが、しだいに、江戸の町人を中心に豪華な人形を座敷にも飾るようになっていったようです。

金太郎（きんたろう）
年代不詳（20 世紀か）

菖蒲飾り（しょうぶかざり）
年代不詳（20 世紀か）

神功皇后と武内宿禰（じんぐうこうごうとたけのうちのすくね）
年代不詳（20 世紀か）

武者人形（むしゃにんぎょう）
年代不詳（20 世紀か）

このページで紹介している資料は、いずれも旧牛窓民俗文化資料館資料です。

◆子どもの遊びにまつわる資料

てまり
年代不詳（20 世紀か）

グローブ
年代不詳（20 世紀か）

おもちゃのピストル
年代不詳（20 世紀か）

羽子板（はごいた）
年代不詳（20 世紀か）

パッチン
年代不詳（20 世紀か）

双眼鏡（そうがんきょう）
年代不詳（20 世紀か）

上に紹介している資料は、いずれも旧牛窓民俗文化資料館資料です。

ミニチュア土器　弥生時代　門田貝塚（邑久町尾張）出土
子どものおもちゃや、おまつりなどに使われたものと考えられています。